

科目名	看護学概論	担当教員	八木志奈子 (学習項目:1~8)		
開講年次	1年 前期	単位数	1	時間数	30
テキスト	看護学概論:医学書院 ナイチンゲール看護論入門				
参考文献	中範囲理論 ナイチンゲール看護論・入門				
関連科目	関係法規 教育学 機能看護論				
ねらい	看護の定義・対象・方法、社会が求める看護について多角的に思考する必要性を学ぶ。また、看護職者としての展望を持ち、学習する目的を明確にできることが狙いである。また、グループダイナミックスの活用やそのコミュニケーションツールとして ICT 技術を修得しプレゼンテーションができる。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論を学ぶ意義を理解し、看護職者としての展望を持ち、学習する目的を明確にできる。 2. 社会が求める看護を提供する必要性を理解し、看護専門職者として看護の質保証が求められていることを理解する。 3. 看護実践を検証する上で、手立てとなる看護理論を学ぶ意義を理解する。また、本学におけるナイチンゲール看護論を基盤としたもてる力を支援する看護を学ぶ意義を理解する。 4. 看護技術は、看護の専門知識に基づいて、受け手の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為であり、実施者の看護観と技術のレベルが反映される看護実践である。その看護実践については、個人として責任を持つと同時に多職種との連携協働により、コミュニケーション能力 (ICT*活用含む) が求められていることを理解する。 <p>* ICT: information and communication technology</p>				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2 3	1.看護とは、	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の定義 保健師助産師看護師法における看護師の定義 2) 看護職能団体による看護の定義 3) ナイチンゲールの看護の定義 ナイチンゲール看護論・入門を読んで、考察する。 4) 看護の役割と機能 5) 看護実践とその質保証に必要な要件 ①看護実践に欠かせない要素 ②看護の質保証に欠かせない要件 ③看護の質保障に欠かせない要件の項目の視点から自身の看護実践・臨地実習の体験を振り返る。 ナイチンゲール看護論・入門を読んで考察をする。 6) 看護の継続性と連携 			講義 個人ワーク
	2.看護の対象の理解	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生活者としての対象 2) 看護の提供の場は、病院施設のみでなく人間の生活の場にある。多様な生活の場である地域での看護が求められていることを理解する。 3) 生活者である対象とその社会の最小単位となる家族の多様性について学ぶ。 			

4	3. 看護の提供者	1) 看護職の資格・養成制度・就業状況	講義 個人ワーク	
5	4.看護の法的根拠	2) 看護職者の継続教育とキャリア開発 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者		
6	5. 看護の歴史	1) 看護と関連する法律を概観し、看護職の法的根拠・相対的欠格事由等について理解する。		
7	6.看護実践と質保証と看護理論	1)看護について、様々に定義されているが、対象は人間であり、対象の理解と人間の健康を支援することを理解する。		
8		2) ナイチンゲールの現代の看護への影響が理解する。		
9		3) ナイチンゲールの看護のとらえ方としての観察について理解する。 ナイチンゲール看護論入門を読んで考察する。		
10		1)看護理論を学ぶ意義。 看護実践における事象・現象を帰納的論証したものが看護理論である。現象をどのように検証・意味付け・根拠づけられているかを理解し、看護の質保証の根拠でもあることを理解する。		
11	7.もてる力を支援する看護と学習支援	① ナイチンゲール ② ロイ ③ ヘンダーソン ④ ペプロウ ⑤ オレム ⑥ トラベルビー ⑦ ウィーデンバック ⑧ アブデラ ⑨ ロジャーズ ⑩ オーランド		講義 グループワーク
12	8.学習の展望	1)ナイチンゲール理論 健康の定義 ナイチンゲール看護論・入門		
13		2)対象の「健康教育を受ける権利があることを理解し看護における学習支援は対象のもてる力を支援」する看護について理解する。		
14		3) 健康の定義は時代とともに変遷していることを理解する。 4) 方法としての看護技術は、看護の専門知識に基づいて受け手の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為である。実施者の看護観と技術のレベルが反映されるものである。その看護技術の意味を理解する		
15	学科評価 まとめ	1) 看護専門職者の基礎看護教育課程を学ぶ意義を学び、目指す看護(師像)について、自身の学習姿勢を考える。また、その目指す看護(師像)のために今どのような学習姿勢で臨むかを表明する。		
評価方法		単位認定試験		
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価をする		
評価区分		学習項目:1~8 100%		

授業科目名	機能看護論Ⅱ（日常生活援助2）		担当教員 河野順子（学習項目：1～3）		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	30
テキスト	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院				
参考文献 関連科目	看護がみえる vol.1 基礎看護技術 看護につながる形態機能学 人体の構造と機能Ⅰ ナイチンゲール看護論・入門				
ねらい	<p>からだの清潔を保ち、身だしなみを整えることは人間の基本的ニーズであり、それらの維持が困難になった場合の対象に適した方法や組み合わせを考え、その看護技術を習得する。また、対象の清潔に対する考え方や習慣は多様であるため、個別性をふまえ羞恥心に配慮した安全・安楽な看護技術を習得する。</p> <p>外界の刺激から身を守る衣服の役割と同様に、皮膚・粘膜自体の身体内部を守る働きを理解し、対象の日常生活に近い方法で清潔行為をし、その人らしい装いができるよう援助する。さらに、対象のもてる力を活用できるよう、紙上事例を通して清潔援助の看護の実際を学ぶ。</p>				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚・粘膜の構造を理解し、清潔援助の効果と全身への影響を理解する 2. 対象の生活を整えるための身体の清潔および衣生活の看護技術を習得する 3. 対象の個別性を踏まえ、安全・安楽な清潔援助を計画・実施・評価できる 4. 対象の羞恥心に配慮し、反応を観察しながら援助が実施できる 5. 演習を通し、対象の気持ちを推察できる 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2 3	1.清潔援助の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> 1) 清潔の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 一般的な清潔援助の目的・方法・評価 (2) 清潔援助の身体への効果・影響 (3) 援助方法の選択 (4) 自分がしてもらいたい清潔援助を考える (5) 患者に提供したい清潔援助を考える 2) 原理原則・根拠に基づいた、自分達がしてもらいたい援助をグループで考える <ol style="list-style-type: none"> (1) 洗髪・口腔ケア (2) 足浴・シャボンラッピング・爪切り (3) 足浴 (4) 陰部洗浄・おむつ交換 (5) 清拭・寝衣交換 (6) 清拭・寝衣交換・陰部洗浄 			講義 グループワーク
4 5 6 7 8 9 10	2.清潔援助の実際	<ol style="list-style-type: none"> 1) グループワークでの学びを実践し、修正点や追加点を明らかにする <ol style="list-style-type: none"> (1) 洗髪 洗髪車とケリーパットを用いて実施する (2) 口腔ケア モデル人形を使用し、口腔ケアを実施する (3) 足浴・シャボンラッピング シャボンラッピングで泡の作り方を学び、足浴ではベースン、フットバスバケツを使用し実施する 			演習 グループワーク

		<p>(4) 全身清拭・寝衣交換 ボタン式パジャマ→甚平パジャマに更衣する 患者役・看護師役・観察役は学生同士で行う</p> <p>(5) 陰部洗浄・おむつ交換 陰部モデルを使用し、男性・女性両方を実施する 患者役・看護師役・観察役は学生同士で行う</p> <p>(6) 全身清拭・寝衣交換・陰部洗浄・おむつ交換 甚平パジャマ→ボタン式パジャマに更衣する 陰部洗浄は陰部モデルを使用する 患者役・看護師役・観察役は学生同士で行う</p>	
11 12	3.紙上事例での看護実践	紙上事例の現在の対象の状態から、今後起こりうる可能性があるかを予期し、適切な援助を見出せるようグループで検討する	
13 14	学科評価 まとめ	単位認定試験	
15	技術評価	<p>単位認定試験</p> <p>事例を使用した技術評価を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清拭 ・陰部洗浄 ・寝衣交換 ・おむつ交換 	
評価方法	学科試験 技術試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学科試験 50% 技術試験 50%		

授業科目名	機能看護論Ⅳ（フィジカルアセスメント）		担当教員 北山 留美子（学習項目：1～3）		
開講年次	1年次 前期～後期		単位数	1	時間数 30
テキスト	基礎看護技術Ⅰ：医学書院				
参考文献 参考図書	看護がみえる Vol13 フィジカルアセスメント 緊急度を見抜く バイタルサインからの臨床推論 フィジカルアセスメントガイドブック 第2版				
ねらい	<p>フィジカルアセスメントは「Head to Toe（頭から爪先まで）」を系統的にみることで、対象の状態を具体的に把握することができる身体審査技術である。しかし、「頭のでっぺんから足の先まですべてみること」ではない。対象の症状や徴候から情報を収集し、必要に応じて触診や聴診を行い、対象の状態を判断・査定することである。また、心理的・社会的アセスメントを加えることで対象を全人的・多角的にとらえられるようになる。</p> <p>フィジカルアセスメント力を育てるためには、フィジカルイグザミネーションの手順や方法だけでなく、推論し判断する思考力が備わっていなければならない。そのため、事例等を用いながら基礎的知識や技術、アセスメント能力を習得し、対象のもてる力に気づき活かした看護ケアにつなげられるように学習する。そして、対象の状態を正しく報告する方法と大切さを学ぶ。</p>				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの意義・目的を知り、看護におけるヘルスアセスメントの重要性を理解する 2. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関連を理解し、もてる力を活用した正確なフィジカルイグザミネーションの方法や思考過程を習得する 3. 系統別フィジカルアセスメントの基礎的知識を学び技術を習得する 4. フィジカルイグザミネーションやバイタルサイン測定したことを正常・異常をふまへアセスメントし、看護の方向性を考えて報告する 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. ヘルスアセスメントの意義	<ol style="list-style-type: none"> 1) ヘルスアセスメントが持つ意味 2) ヘルスアセスメントに必要な観察 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定量的観察と定性的観察 3) ヘルスアセスメントに必要な情報 <ul style="list-style-type: none"> (1) 主観的情報 (2) 客観的情報 (3) 問診 3) ヘルスアセスメントにおける重要な視点について事例を使用し臨床推論の思考でアセスメントする <ul style="list-style-type: none"> (1) フィジカルイグザミネーションによる観察結果や検査からのデータ、対象の反応などの情報が何を意味しているのかを考える (2) 患者が訴えている症状とデータの意味づけを行う (3) 情報を整理し患者の全体をとらえ問題に気づく 			講義 演習

2 3	2. 全身状態の把握	<p>1) フィジカルアセスメントに必要な技術 (1) 視診 (2) 触診 (3) 聴診 (4) 打診</p> <p>2) バイタルサイン測定の実践とアセスメント (1) 正しい測定方法を根拠を含めて学習し実践する ①体温 ②脈拍 ③呼吸 ④血圧 ⑤意識 (2) 実際の測定値をアセスメントする ①正常・異常 ②緊急度の判断</p> <p>3) バイタルサイン測定とフィジカルイグザミネーションによる情報を統合しアセスメントし看護につなげる思考を学ぶ (1) 自己の方法を振り返り正しい測定方法を学ぶ</p>	講義 演習 (ジグソー学習)
4	3. 系統別フィジカルアセスメント	<p>1) 症状事例を基に呼吸器系のアセスメントに必要な観察方法や呼吸状態の評価について学ぶ (1) 呼吸器系の基礎知識 (解剖、呼吸音の種類) (2) フィジカルアセスメントの実際 ①シュミレーターや動画により正常な呼吸音と異常呼吸音を理解する ②呼吸困難や酸素化不良の徴候について学ぶ</p>	講義 演習
5		<p>1) 循環器系のアセスメントに必要な観察方法や心音や末梢循環の状態を正しくとらえる方法を学ぶ (1) 循環器系の基礎知識 (解剖、心音 (I音II音) 聴取) (2) フィジカルアセスメントの実際 ①シュミレーターにより正しい位置での心音聴取 ②動画による正常・異常の心音を理解する ③末梢循環不全の徴候 (チアノーゼ・浮腫・皮膚温) ④脈拍・血圧値の評価</p>	講義 演習
6 7		<p>1) 呼吸器・循環器系の相互の関連を理解し、フィジカルイグザミネーションによる情報を統合的に判断し必要な援助を考え実践につなげる (1) 事例を使用 (2) 事例患者のデータから状態を考察し、異常に気づき原因を分析する (3) 事例患者のフィジカルイグザミネーションから心肺機能を統合的に判断し、根拠をふまえながらアセスメントする (4) アセスメントし看護を考え報告する</p>	講義 演習 グループワーク
8		<p>1) 症状事例をもとに腹部のフィジカルアセスメント技術を学ぶ (1) 腹部の基礎知識 (解剖、腹部聴診・打診・触診の方法、腸音の分類)</p>	講義 演習

		(2) 腹部のフィジカルアセスメントの実際 ①動画による腸音聴取により異常音と症状を関連付けて学ぶ	
9		1) 筋・骨格系における関節可動域や筋力、歩行のアセスメントとADLの関連について学ぶ (1) 筋・骨格系の基礎知識（解剖、関節の動き） (2) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際 ①日常生活や歩行に必要な動作 ②日常生活に必要な関節可動域 ③筋力の評価（MMT）	講義 演習
10		1) 脳神経系のフィジカルアセスメント (1) 神経系の基礎知識（中枢神経と末梢神経） (2) 意識障害の事例を使用し、変化に気づくための基礎知識を学ぶ（意識レベルの確認、瞳孔反射、運動反射、感覚異常、小脳機能の観察と評価方法）	講義 演習
11		1) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント (1) 乳房とリンパ系の基礎知識（解剖） (2) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの実際 ①自覚症状の確認 ②視診と触診の方法 2) 外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント (1) 外皮系のフィジカルイグザミネーション	講義
12		1) 事例を用い、事例患者の状態を判断分析し、対象のもてる力を活かした看護を考察する 2) 患者の異常に気付いた際の「報告のタイミング」「記録」「スタッフとの連携」を考える 3) 報告のしかたをグループで考え実践する	演習 グループ ワーク
13 14	技術評価	単位認定試験 1) 紙上事例を使用し技術の習得を確認し評価を受ける	
15	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法	学科試験 技術試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学科試験：1～3 50% 技術試験： 50%		

授業科目名	機能看護論Ⅴ (診療の補助技術 1)		担当教員 近藤 宏美 (学習項目:1~4)			
開講年次	1年前期		単位数	1	時間数	20
テキスト	基礎看護学 医学書院					
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術					
関連科目	薬理学 薬物療法と看護					
ねらい	健康障害のある対象が安心して安全・安楽に診療が受けられるように、また、治療効果が上がるように援助することは看護師の大切な役割である。対象が受ける薬物療法の目的、処方意図、副作用とその徴候を理解し、アセスメントや効果の判定を正確に行うための知識を習得する。さらに、正しい与薬方法・薬剤の管理方法、各種与薬方法の特徴と援助の実際を学ぶ。					
目標	1. 正しい与薬方法を理解し薬剤を準備することができる 2. 薬物の基礎知識をもとに、薬物療法を理解し安全に与薬できる 3. 針刺し事故の危険性を理解し、安全に注射投与することができる 4. 対象が生活する環境に応じて自己管理ができる支援方法を理解できる					
回数	学習項目	学習内容			方法	
1 2	1. 与薬の基礎知識 医薬品の法的規制 (保健師助産師看護師法37条) 2. 看護師の役割 3. 援助の基礎知識	1) 薬物の基本的性質 剤形と与薬方法 薬物動態 2) 正しい薬物投与 薬の管理 3) 与薬における安全管理 4) 感染予防 (医療廃棄物の取り扱い 保管場所) 5) 薬物投与における安全管理 6) 事故発生時の対応;医療安全の確保 に向けた視点 7) リスクマネジメント;医療安全の確保 に向けた取り組み			講義演習	
3 4 5 6 7 8 9	4. 与薬方法 薬物投与経路の援助技術	1) 経口与薬方法:内服、口腔内投与 2) 経皮・外用的与薬方法:塗布、塗擦 貼用法 3) 点鼻、点眼 点耳 4) 坐薬挿入法:直腸内 5) 注射法:皮内注射法 皮下注射法 筋肉内注射 点滴静脈内注射(抗がん剤投与含む) 6) 高カロリー輸液法と 中心静脈栄養の管理 7) 輸血法と輸血の管理 8) 輸液ポンプ シリンジポンプの操作			講義演習 技術演習	
10	学科評価 まとめ	単位認定試験				
評価方法	学科試験、出席状況、授業態度、課題提出にて総合的に評価する					
評価区分	学習項目:1~4 100%					

授業科目名	看護の統合と実践 I (看護研究)		担当教員 元吉広恵 (学習項目: 1~4)	
開講年次	1年次 後期		単位数	1
テキスト	看護学概論 医学書院			
参考文献 関連科目	よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版 日本看護協会出版 https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/document/index.html 看護職の倫理綱領・看護研究のための倫理指針 (日本看護協会)			
学習のねらい	新たな知見と技術を発見する手がかりの1つとなる看護研究の基礎を学び、他者の研究論文を通してクリティカルな思考を身につける。また、専門職者として看護の質の向上をめざすため、事例研究を通して論文の書き方、発表の方法を学ぶ。			
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. よりよい看護実践を目指して看護を広く深く追求していく必要性を理解する 2. 研究の基礎的プロセスを理解する 3. 自己の看護実践によってもたらされた対象の反応を客観的、化学的、論理的に捉えケーススタディを作成する 4. 看護研究学会に参加し新しい知見に触れ、看護の知識を深める 			
回数	学習内容	学習項目	方法	
1 2	1. 看護研究の意義	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護研究とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護における実践と研究 (2) 研究の意味、実践からの手がかり・気づき 2) 看護研究と倫理的配慮 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究と基本的人権 (2) 倫理上の原則 (3) 研究テーマの発見の仕方 	講義	
3 4 5	2. 研究計画と文献検索	<ol style="list-style-type: none"> 1) 文献の使い方・検索の方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) クリティカルシンキングとクリティーク (興味のある文献を読み、わかったことをまとめてみよう) (2) 研究疑問 (リサーチクエスチョン) の設定 (研究疑問と疑問に対する仮説を考えてみよう) 2) 研究計画書の立て方 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究計画書作成の目的と概要 	講義 グループワーク	
6	3. 研究論文のまとめ方と発表の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 論文の構成とまとめ方 2) 研究計画書の書き方の実際 3) 論文をまとめる上での注意事項 4) 発表原稿と発表資料のまとめ方 	講義	
7	4. 看護研究の実際を知る	<ol style="list-style-type: none"> 1) 千葉県看護研究学会に参加 	研究会参加し レポート提出	
	学科評価	単位認定試験		
	評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
	評価区分	学習項目: 1~3 70%	学習項目: 4	30%

授業科目名	地域・在宅看護論 IV (暮らしと健康を支える看護)		担当教員 中野 睦 (学習項目: 1~4)		
開講年次	2年	単位数	1	時間数	15
テキスト	地域・在宅看護論の基盤1 地域・在宅看護の実践2 医学書院				
参考文献 関連科目	地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 地域療養を支えるケア・在宅療養を支える技術 ナーシンググラフィカ				
ねらい	対象者への自己決定支援や権利擁護を踏まえてマネジメントの実際を学ぶ。それに関わる職種、機関、社会資源を知り、多職種連携、協働における看護師の役割について考える。 訪問の実際と臨床判断の演習を通して、訪問看護の一連を理解する。 地域全体を対象とする看護として、地域包括ケアシステム・健康づくりと疾病予防の取り組みを理解する。				
目標	1. ケアマネジメントにおける多職種協働の意義と方法を理解する 2. 事例を用いた演習により、訪問場面を想起でき、臨床判断の実際を理解する 3. 地域包括ケアシステム、健康づくりと疾病予防の取り組みについて理解する				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 地域・在宅看護マネジメント	1) ケアマネジメントとは 2) 多様な場における地域・在宅看護マネジメント			講義
2 3 4 5	2. 訪問看護の実際と臨床判断	1) 暮らしの場で看護する心構え 2) セルフケアを支えるコミュニケーション 3) 地域・在宅看護における家族を支える看護 4) 地域・在宅看護における安全をまもる看護 5) 地域・在宅看護実践におけるリスクアセスメント 6) 訪問看護技術 ①訪問場面の実際 ②訪問看護における臨床判断			講義 演習
6 7	3. 地域・在宅看護のシステムづくり	1) 地域包括ケアシステム 2) 健康づくりと疾病予防のシステム 3) 地域包括ケアシステムと多職種連携 4) 健康支援活動の実際 (健康教育のグループ発表)			講義 グループワーク 演習
	学科評価	単位認定試験			
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する				
評価区分	学習項目: 1~3 100%				

授業科目名	看護方法論Ⅱ	担当教員	池田 香理	(学習項目：1～6)	
開講年次	1年	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ：医学書院				
参考文献	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針				
関連科目	NANDA-I 看護診断 看護がみえるⅣ看護過程の展開				
ねらい	ゴードンのアセスメント枠組みを使用し、看護過程の展開の基礎を学ぶ。紙上事例を使って、情報から根拠のある看護診断を導き、問題解決をはかるための目標を考える。そこから、具体的援助を考えられるようにする。また、健康自己管理不良の診断についても、もてる力を支援できる看護として積極的に考えられるようにする。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する 2. 看護方法論として看護過程を用いることの意義を理解する 3. 紙上事例をもとに、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解する 4. 看護過程の各段階についてその基本的な考え方と実際を理解する 5. 全体像を把握できる関連図の作成について理解する 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 看護実践における看護過程とは	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の意義について理解する 2) 看護過程の構成要素を理解する 3) クリティカルシンキングについて理解する 			講義
2	2. 看護過程における看護診断と看護成果および看護介入について	1) 「NANDA-I 看護診断の定義と分類」の見方と活用方法について			講義
3 4 5 6	3. アセスメントの枠組みとしてゴードンの機能的健康パターンを用いる意味	<ol style="list-style-type: none"> 1) ゴードンの機能的健康パターンについての11の枠組みの意味 2) 情報の整理の仕方 3) アセスメントの考え方 			講義
7	4. 全体像の捉え方と関連図作成の意味	1) 関連図の中に対象者の背景、発達段階、病態、治療、看護上の問題をあげ全体像を可視化する方法			講義 個人ワーク
	5. 看護診断・看護計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の優先順位の考え方 2) 看護計画の立案 3) 対象者の強みを活かした計画を考える 			講義 個人ワーク
	6. 看護実際・評価	1) 看護実践の後のリフレクションから評価・修正			講義 個人ワーク
	学科評価	単位認定試験			
評価方法	出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する				
評価区分	学習項目：1～6 100%				